Impact on the physical health-status of victims of the Noto peninsula earthquake : focusing on blood pressure and body-mass index (BMI)

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松本, 浩子, Matsumoto, Hiroko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/19525

平成 21 年 2 月 17 日

博士論文審査結果報告書

報告番号　医博甲第 2032 号

学籍番号

氏　名　松本 浩子

論文審査員

主　査（職名）　泉 キヨ子　印

副　査（職名）　須釜 淳子　印

副　査（職名）　城戸 照彦

論文題名　Impact on the Physical Health-Status of Victims of the Noto Peninsula Earthquake – Focusing on Blood Pressure and Body-Mass Index (BMI) –

（能登半島地震被災住民における身体的健康影響ー血圧およびＢＭＩに焦点をあててー）

論文内容要旨

本研究は能登半島地震に被災した輪島市住民の基本健康診査の血圧と BMI の成績から身体的健康影響を明らかにすることである．対象者は、能登半島地震に被災した輪島市住民で、平成 18 年度と 19 年度の両年の基本健康診査を受診した 5,693 名である．方法は対象者を男女別、年齢階級別、罹災程度別と高血圧疾患の内服治療の有無で分析した．

結果は、収縮期血圧では、非高血圧群の女性の 75 歳以上の全壊と一部損壊の被害者で有意な上昇、男性 75 歳以上の全壊の被害者で有意に低下した．BMI では、高血圧群の男性 65 歳未満の全壊、65－74 歳の半壊、75 歳以上の全壊、一部損壊の被害者、女性では、65－74 歳の全壊、75 歳以上の一部損壊の被害者において、震災前後で有意な減少。非高血圧群の男性 65 歳未満と 75 歳以上の一部損壊の被害者、女性 65－74 歳の全壊、半壊、75 歳以上の一部損壊の被害者で有意な減少がみられた。多重ロジスティック・モデルから、収縮期血圧の影響要因はなかったが、拡張期血圧では、女性で年齢と一部損壊に対して全壊で有意な上昇を示した。BMI への影響要因では、男女とも年齢で有意な負の関連を示し、男性では一部損壊に対して全壊で有意な減少があった．

審査結果の要旨

本論文は、十分な研究対象者数に基づく疫学研究であり、さらに、震災前後の血圧値と BMI の変動に着目した点が斬新である。得られた結果も、罹災程度の重度化が BMI の減少や女性で拡張期血圧の増加に影響しているという過疎高齢化地域特有の健康要因を見出した点で災害看護分野に新たな知見を加える貴重な研究成果である。

公開審査会では「血圧と BMI を取り上げた理由」「有意差は震災によるものか」「BMI 低下の要因」「本結果の今後の活用」などの質問があったが，口述発表も質疑応答も的確で適切であったと判断した．

以上から、主査・副査は博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価した．